

平成27年度第1回研究評価委員会 議事概要

日時：平成27年5月27日（水）10:00～17:30

場所：道総研プラザ1階セミナー室

委員：

委員長 富田 房男
副委員長 田村 亨
委員 東 司
委員 下澤 盾夫
委員 新田 恒雄
委員 福田 正己
委員 船水 尚行
委員 三浦 汀介

道総研：

理事	尾谷 賢
研究企画部長	竹内 徹
研究企画部副部長	佐藤 充孝
研究企画部企画G 主幹（企画）	山口 幹人
研究企画部知的財産G 主幹（知的財産）	大村 功

1 開会（10:00～）

- ・挨拶（富田委員長）

2 議題

- ・戦略研究

【戦略①：北海道の総合力を活かした付加価値向上による食産業活性化の推進】

【委員】 個別の食品に関する成果は出ている。しかし、研究全体の旗印が見えない。

【委員】 国内でブランド力が付けば、海外でも付くはず。国内ばかりを見ないでほしい。

【委員】 企業に参加いただくとともに、政策ともタイアップしていくことが必要。

【戦略②：「新たな住まい」と森林資源循環による持続可能な地域の形成】

【委員】 課題が目指す最終形（ビジネスモデル・地域振興）が見えない。

【委員】 環境対応は必要条件で、その上で顧客を満足させるものを作る必要がある。

- ・循環資源利用促進特定課題研究開発基金事業

【循環①：ホタテ貝殻・牛糞堆肥の安定製造技術と草地での施用法の確立】

【委員】 製造システムは構築できたので、今後、利用／使用システムの構築が必要である。

【循環②：建設混合廃棄物のリサイクル推進に関する実態調査】

【委員】 実態調査で得られたデータは貴重である。これからの改善提案が大事である。

【循環③：石灰質未利用資源を用いた高性能排煙処理剤の開発】

【委員】 海外への技術の輸出も視野に入れて、普及を図ってほしい。

【循環④：ホタテウロの利用技術開発】

【委員】 ミニプラントからの実用化・社会実装化を着実に進めてほしい。

【循環⑤：農業用廃プラスチックの再利用に関する研究】

特になし

・重点研究（事後評価）

【重点①：高度通信制御技術を活用した次世代型ポテトプランタの開発】

【委員】 プロトタイプ機について、市販化を進めてほしい。

【重点②：新たな商品開発に向けたやまのいも「十勝3号」の品質評価と生産技術の確立】

【委員】 全国展開に向けて、安定生産・安定供給を目指してほしい。

【重点③：道北地域における食用かぼちゃ種子の安定生産体制の確立】

【委員】 「作る」と「分離する」をセットで実施した道総研として良い研究事例である。

【重点④：道産小麦の用途拡大に向けた「ゆめちから」の高品質安定生産及びブレンド指針の策定】

【委員】 本格栽培開始後の生産方法・指針の策定は速やかな対応であった。

【重点⑤：給餌型ウニ低音蓄養システムの開発】

【委員】 大量死の原因解明に真摯に取り組んでいただきたい。

【委員】 生産コストの低減が必要である。

【重点⑥：樹脂基材への金属皮膜形成技術の開発】

【委員】 技術移転を目指した研究開発を実施する意識が必要である。

【重点⑦：リバースエンジニアリングの迅速化を図る3次元CAD/CAMデータ作成支援システムの開発】

【委員】 非常に重要なコア技術であり、北海道発として普及を図ってほしい。

【重点⑧：北海道の津波災害履歴の研究 - 未解明地域を中心に - 】

【委員】 調査地を太平洋沿岸にも広げてほしい。

・重点研究（中間評価）

【重点⑨：冬季の道産葉菜類供給強化に向けた無加温ハウス生産出荷体系の確立】

【委員】 生産流通の確立を目指して、課題を明確にして進める必要がある。

【重点⑩：たまねぎ新品種「ゆめせんか」の加工特性解明と高品質安定生産技術確立による需要促進】

【委員】 将来の需要に見合う生産能力・安定供給を図るべき。

【重点⑪：道産コンブの生産安定化に関する研究】

【委員】 天然を超える人工的な乾燥手法の開発が求められている。

【委員】 研究の統合化に向けて、主管担当を明確にして組織・研究内容の見直しをするべき。

【重点⑫：サケ稚仔魚の原虫病総合的予防技術の開発】

【委員】 原虫病の発生源の解明が必要である。

【重点⑬：林業用優良種子の安定確保に向けた採種園整備指針の策定】

とくになし

【重点⑭：早生樹「ヤナギ」を活用した高品質シイタケの安定生産システムの開発】

【委員】 大分県（生産量全国1位）に勝てるような品質のシイタケの生産を目指すべき。

【委員】 良いシイタケができるメカニズムの解明を進めてほしい。

【重点⑮：成熟化するトマツ人工林材の用途適正評価と利用技術開発】

【委員】 成果をしっかりとイメージできるように、研究を進めてほしい。

【重点⑯：北海道産小豆粉の製造とそれを活用した食品製造技術の実用化に関する研究】

【委員】 粉碎・分級技術の適用について、解析・検討が必要である。

【重点⑰：火山体内部構造・熱水流動系のモデル化と火山活動度評価手法の高度化（十勝岳）】

【委員】 重要な研究であるため、観測を継続してほしい。

【委員】 成果を噴火予測・予知と結びつける必要はない。

3 報告（16:30）

- ・平成23年度終了課題のうち追跡調査が必要とされた課題
- ・平成26年度経常研究等の事後評価
- ・平成28年度研究開発の重点化方針（案）
- ・その他

4 閉会（17:30）